

山椒の収穫に向けて 4月の農作業

昨年度は雪も少なく例年に比べて暖かい冬でした。

山椒の開花もまもなく始まり、収穫時期が徐々に近づいてきました。圃場の山椒の状況を確認し収穫に向けた準備を始めましょう。

その1 開花時期の確認

満開から約1ヶ月後が収穫の目安とされています。開花状況を確認し、収穫日を予測します。山椒の満開は8割程度開花した状態を指します。

《昨年の満開状況 下神戸地区…4月27日頃》



つぼみ



開花始め

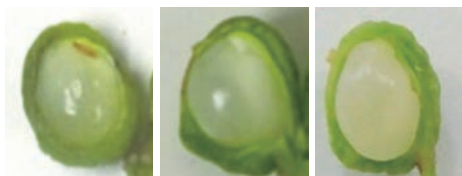


満開
8割以上のめしべが出てきた状態

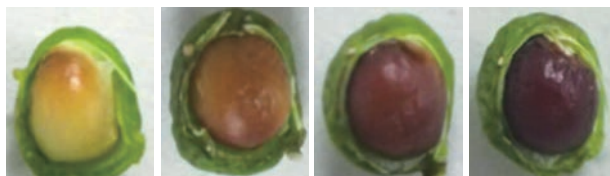
その2 収穫適期の確認

開花後の天候が良く、適度な降水がある場合、実の成熟は早まります。

予測した収穫日の1週間前くらいから成熟の早い果実を複数割って種子の色を確認し、透明から乳白色に変わる時点で収穫を開始します。



(収穫適期)



(悪い) →

その3 病害虫に注意! (発生しやすい病害虫)

●アゲハチョウの幼虫

4月～10月頃まで発生し葉を食害する。葉が無くなっている枝があるようなら付近を捜索して捕殺する。

●アブラムシ類

新梢部に寄生し、養液を吸収する。

モスピラン顆粒水溶剤4,000倍を、収穫7日前まで1回散布する。

裏面は水稲除草剤使用のためのポイントを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

水稲除草剤使用のためのポイント

4月の農作業

安定した効果を得るための重要ポイント

- ① 田面を均平にする
- ② 代かきを丁寧にする
- ③ 天気の良い日を選び、気温の低い日、風の強い日は散布を避ける
- ④ 除草剤の使用量・使用時期を守る

除草剤の散布方法

- (1) 湛水散布**……湛水状態の水田に農薬を散布することで、水稲用除草剤では一般的な処理方法
有効成分の田面水中での拡散を介して均一な処理層が形成され、雑草の発生を抑える。
散布後3～4日は湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしないようにする。
田面が露出すると安定した効果が得られず、露出個所から雑草が発生する原因となるため、水を十分に確保するようにしてください。
- (2) 落水散布**……落水して田面に水がない状態での処理
一般に生育期の雑草を対象とした除草剤で、中期除草剤や後期除草剤で用いられる。
雑草の茎葉に付着するように散布し、処理後は2～3日落水状態を保つ必要があるため、中干し期に合わせた処理が効果的。
雑草の発生している部分だけに処理することも可能。

(3) 使用農薬

初・中期除草剤

■エンペラージャンボ (1袋10パック入り)

- 10a当たり10パック使用
- 移植直後～ノビエ3葉期
但し、移植後30日まで 1回
- 湛水散布



■エンペラー1キロ粒剤

- 10a当たり1kg使用
- 移植時～ノビエ3葉期
但し、移植後30日まで 1回
- 湛水散布



■ショキニーフロアブル (1本500ml入り)

- 10a当たり500ml使用
- 移植後～ノビエ1葉期
但し、移植後30日まで 1回
- 原液湛水散布



■マメットSM1キロ粒剤

- 10a当たり1kg使用
- 移植後15日(稲5葉期以降)～
ノビエ3.5葉期
但し、収穫60日前まで 1回
- 湛水散布



■セカンドショットSジャンボ (1袋20パック入り)

- 10a当たり20パック使用
- 移植後14日～ノビエ3.5葉期
但し、収穫45日前まで 1回
- 湛水散布



裏面は山椒の収穫に向けてを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。